

私のチーム・ティーチング体験

青森市立新城中学校
渡辺 仁



はじめに

平成5年度版の三省堂NEW CROWNを使って中学2年生を教えている時、ちょうど市内の中教研英語部会でチーム・ティーチングの授業を公開することになりました。授業を公開する時期が9月下旬ということで、2年生の助動詞willのレッスンが当たりました。ALTとの初めてのチーム・ティーチングの研究授業ということで、なるべく生徒が親しみやすい教材で授業ができないものかと考えをめぐらしました。またこの研究授業をきっかけに英語の指導案の作成に初めて挑戦することになりました。今回は初めてT-T授業の指導案を書いた経験をご紹介します。

当時のT-T授業

研究授業をすることになったものの、私自身に確固たる指導案作成のノウハウはありませんでした。平成5年の頃は、まだチーム・ティーチングに関する書籍なども今より少なく、日本人英語教師(JTE)のために、文部省が発行した本がわずかにある程度でした。たまたま、岩手県盛岡市で行われた北海道・東北ブロックの中間期研修に参加する機会に恵まれた際、北海道と秋田県のJTEとALTが共同で執筆したHANDS ON TEAM-TEACHINGという本を手頃な値段で手に入れることができました。

その当時のALTとのT-T授業は、JTEが考えた指導案にALTが従うというJTE主導型のものでした。異文化を背負ったALTの個性を引き出し、真の意味での共同のT-T授業をどのように構築するか、という示唆をこの本から得ることができたのはラッキーでした。

ALTとのT-T授業を組み立てる際一番よい方法は、JTEとALTがその教材について互いの意

見を交換することです。その頃青森市にはトーマスさんとリンゼーさんという2人のALTがいました。当時の勤務校ではALTはレギュラー訪問ではなくセミレギュラーの訪問でした。限られた時間の中で効率よくT-T授業を準備するために、簡単なスケジュール表を作成しALTのリンゼーさんにお渡ししました。そこで、来校した日の空き時間を利用して、授業の手順やスキットのチェックについて打ち合わせを持ちました。

授業の考え方

このT-T授業では、私は以下の2点を特に重視しました。

- (1) 基礎・基本である言語材料の定着を図る
- (2) ALTとのT-Tで最大のメリットである2人の教師によるスキットを、わかりやすくしかも楽しい内容にする

ALTとのT-T授業は普段の授業とは違う「特別な」授業、つまりゲームをしたりスピーチ発表をしたりといった形のものが多いかと思いません。この研究授業ではALTの協力を得て、普段の授業で学習する言語材料や題材についても同時に導入するというを試みました。

また研究授業をするにあたり、事前に生徒の実力テストの分析をしました。

「助動詞canの定着度」(正解率%)

- (1) 次の文にcanを入れて全文を書きなさい。
 - a) I play baseball in the park.(90%)
 - b) He speaks English well. (68%)
 - c) She helps her mother. (68%)
- (2) 次の日本文にあうように()に適語を書きなさい。

- a) 私たちは学校に8時に着きます。
We () school at 8:00. (26%)
- b) 彼は歩いて公園に行きます。
He () to the park. (19%)
- c) 私の妹は10時に寝ます。
My sister () to bed at 10:00.(35%)
- d) 太郎は上手に野球をすることができる。
Taro () () baseball well.(58%)
- e) 絵美は11時に東京に向かって出発することができる。
Emi () () for Tokyo at 11:00. (10%)
- f) 私は海で泳ぐことができる。
I () () in the sea. (58%)
- (3) 次の日本文にあうように()内の語を正しく並べかえなさい。
- a) あなたはあの自転車を使うことができる。
(use, bike, can, that, you) (74%)
- b) 次郎はこの歌を歌うことができますか。
(song, Jiro, this, sing, can, ?) (74%)

(1)については、canを動詞の前に置くことはよく理解しているが、(b)と(c)では動詞に三単現の-sを付ける誤答が目立ちました。(2)では、全体的に正解率が低く、(1)と同様に三単現の-sや-esを使い分けることができない生徒のいることがわかりました。(3)では品詞の区別ができないためにcanの後に動詞をつなげていない文を多く目にしました。

この調査の結果、1年で学ぶ基礎的・基本的事項があまり定着していないことがわかりました。男女とも、英語に対する興味・関心は非常に高いので、それが持続するよう4技能をバランスよく取り入れ、1年の復習を織り込んだ指導案が必要であることを認識しました。

T-T指導案のポイント(p.3-4の指導案を参照)

1. 言語材料willを織り込む

ターゲットの言語材料であるwillを2のOral Introductionで積極的に使用し、3の言語材料の導入の部分でワークシートを使ってわかりやすく解説を提示しました。このワークシートでは既習の助動詞canと対比させ、生徒が抵抗なく

学習できるように配慮しました。

2. 生徒の積極的な自己表現を促す

5のSpeaking Drillでは2つの天気図を用いながら対話文を作成します。ここでは生徒が身近に感じられるよう、また自然な対話につなげるために、天気図は青森の天気を示したものを使用しました。

3. 4つの領域の配分と授業の山場

ALTとのT-Tの授業では「話す」ことに主眼が置かれることが多いと思います。この「話す」に至るまでに私はそのほかの3つの領域を織り込んでみました。特に4のDrillから5のSpeaking Drillに展開する部分では、対話文を作って発表させるという活動の中に、writingを持ってきて、この授業の山場としました。

教室に先生が3人?

平成5年当時、右往左往して取り組んだチーム・ティーチングの授業も最近では大きく発展し、多くのバリエーションが生まれてきています。つい最近青森市のある中学校で、ALT1人とJTE2人の計3人の教師によるチーム・ティーチングの研究授業がありました。単元名は、NEW CROWNの2年生、9課、United Kingdomでしたが、全校をあげての研究テーマである「地球の環境について考えよう」という環境教育に引きつけた授業となっていました。

イギリス出身のヘレンさんから商品の包装に関する日本とイギリスの相違点を述べてもらい、日常誰もが経験している疑問点を環境問題に関連させて、生徒が自分の意見や考えを英語で表現する活動に結びつけていました。“Which do you like better, A or B? I like ~ better.”を使って、「商品の過剰包装」について環境問題と関連させペアで会話文を使って発表する、というものでした。この授業のすばらしい点は、3人の教師で30名あまりの生徒を指導することで、きめの細かい机間巡視や個別指導ができるということです。

このようなT-Tの形態はこれまでの教師2人による授業とはまた違った試みができる可能性

があると思います。学級の生徒数が多いとどうしても目が届かない点が出てきてしまいますが、もし3人で指導できれば生徒の学習においていろいろな成果が期待できると予想されます。

何を教えていくのか？

NEW CROWNという教科書は、題材選定において「コミュニケーションを豊かにする題材」という視点を非常に大切にしていると思われます。アメリカやヨーロッパだけでなく近隣諸国にも目を向けさせる豊富な題材を通して生徒は（そして教師も）、その持つ意味や背景を学び、学ぶことの充実感を得ることができます。というのも、NEW CROWNの題材は一方通行ではなく、双方向のコミュニケーションを非常に重視しているからです。

日本文化紹介授業実習という、三沢の米軍基地内にあるエドグレン・ハイスクールを訪れて授業実習をするプログラムがあります。そこに受講生として参加した際、トランプに対抗して「花札」を扱い軽く日本の文化の紹介をしました。ルールを簡単に英語で説明してデモンストラーションゲームをしたところ、大変盛り上がりすぐに持ち時間がなくなってしまいました。普段とは環境の異なる教室でのこの体験は、私に「コミュニケーションとは何か」というものを教えてくれたように感じています。

このような発信型の活動をNEW CROWNは多く取り入れています。豊富な題材が「宝の持ち腐れ」にならないよう、そして多様化する教授法や教材の研究が怠慢にならないよう、今後も研鑽を積んでいきたいと思っています。

Today's Teaching Procedure: (1/7)

Text: Lesson 7, An Australian Teacher (1)

Objective of this period:

To have students understand future tense and communicate with each other using two weather maps.

Grammar point: will

Teaching Procedure

Activities	JTE	ALT	STs
1. Warm-up Activities	Good morning, everyone. What did you do yesterday? Students, what is apple picking in Japanese?	Good morning, everyone. How are you? I'm fine too, thank you. What did you do yesterday? I went apple picking yesterday. りんごをもぎ取るジェスチャーをする。	Good morning, Mr Watanabe and Miss Lindsay. I'm fine, thank you. How are you? ST1: I went to the Gappo Park yesterday. ST2: I played basketball yesterday. ST3: I cooked lunch yesterday. STs: It is “りんごもぎ”.
2. Oral Introduction: (Important expressions)	<p>Skit-1</p> <p>1) Hello, Miss Lindsay. 3) What did you do yesterday? 5) Right. 7) I went shopping at JUSCO. 8) I <u>will give</u> you this.</p> <p>Skit-2 (Textbook: p.49) 2) Look at this map. 3) Now we are here. 4) Go straight along this street. 5) When you come to the corner, turn left. 6) Then you <u>will see</u> a big building on the right. 8) Not at all.</p>	<p>2) Hello, Mr Watanabe. 4) I studied Japanese yesterday. 6) What did you do yesterday? 9) Thank you. Try Skit-1 again. 1) Excuse me, but I'd like to go to Nakasan. Where is it? 7) Thank you very much.</p>	<p>(Listen and try to get the meaning.)</p> <p>(Listen and try to get the meaning.)</p> <p>*評価1 助動詞willの意味をいうことができたか。</p>

Activities	JTE	ALT	STs
3. Presentation of New Material:	<p>(JTE explains the meaning and the way of using future tense in Japanese.)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Skit-1 話し手の意志「 」 意志未来(～するつもりです。)</p> <p>Skit-2 単なる未来「 」 単純未来(～でしょう。)</p> <p style="text-align: center;">can (tonight).</p> <p style="text-align: center;">主語 + 助動詞(will) + (動詞の原形) + ~ + (tomorrow).</p> <p><You, It, A typhoon> *否定形 will + not = won't</p> </div> <p>Will you give me some examples? Please write three sentences in English.</p> <p>Please say three sentences in Japanese.</p>	<p>Yes, I will.</p> <p>Examples: 1) You will watch TV tonight. 2) It will be fine tomorrow. 3) A typhoon will come to Japan in two days.</p>	<p>・ワークシートを使用する。</p> <p>(Listen and write three sentences in English.)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>*評価2 助動詞willの後に動詞の原形をもってくるのができたか。</p> </div> <p>1) あなたは今晚テレビを見るつもりです。 2) 明日は晴れるでしょう。 3) 台風は二日後に日本にやって来ましょう。</p>
4. Drill:	<p>Please make and say negative sentences one by one.</p> <p>Please make and say Q & A one by one.</p> <p>Please write negative and Q & A sentences one by one in your paper.</p>	<p>Listen to them and give me comments one by one.</p> <p>Listen to them and give me comments one by one.</p> <p>Walk around and help them.</p>	<p>1) You will not watch TV tonight. 2) It will not be fine tomorrow. 3) A typhoon will not come to Japan in two days. (will not=won't) (Repeat after ALT one by one.) 1) Will you watch TV tonight? Yes, I will. / No, I will not. 2) Will it be fine tomorrow? Yes, it will. / No, it will not. 3) Will a typhoon come to Japan in two days? Yes, it will. / No, it will not. (Repeat after ALT one by one.) (Students write in their papers.)</p>
5. Speaking Drill:	<p>Make a dialogue using future tense about today's and tomorrow's weather maps given by me.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Example :</p> <p>1) It is raining in Aomori today. 3) Yes. It will be fine tomorrow. Will you go with me?</p> </div> <p>(Presentation)</p> <p>(JTE picks some students.)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2) Will you go <u>apple picking</u> tomorrow? 4) No. I will go shopping with my friend.</p> </div> <p>(ALT is expected to help the students make their sentences better.)</p>	<p>Students make pair groups. Each group makes a dialogue. The groups pointed by JTE must present their dialogue.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>*評価3 2つの天気図を用いながら、助動詞willを用いた対話文をつくり、お互いに対話することができたか。</p> </div>
6. Assignment & Farewell:	<p>How did you feel about today's lesson? Your dialogues were very creative. That's all for today's lesson. Good-by, everyone.</p>	<p>Today's lesson was ~. Students spoke ~. Good-by, everyone.</p>	<p>Good-by, Mr Watanabe and Miss Lindsay.</p>